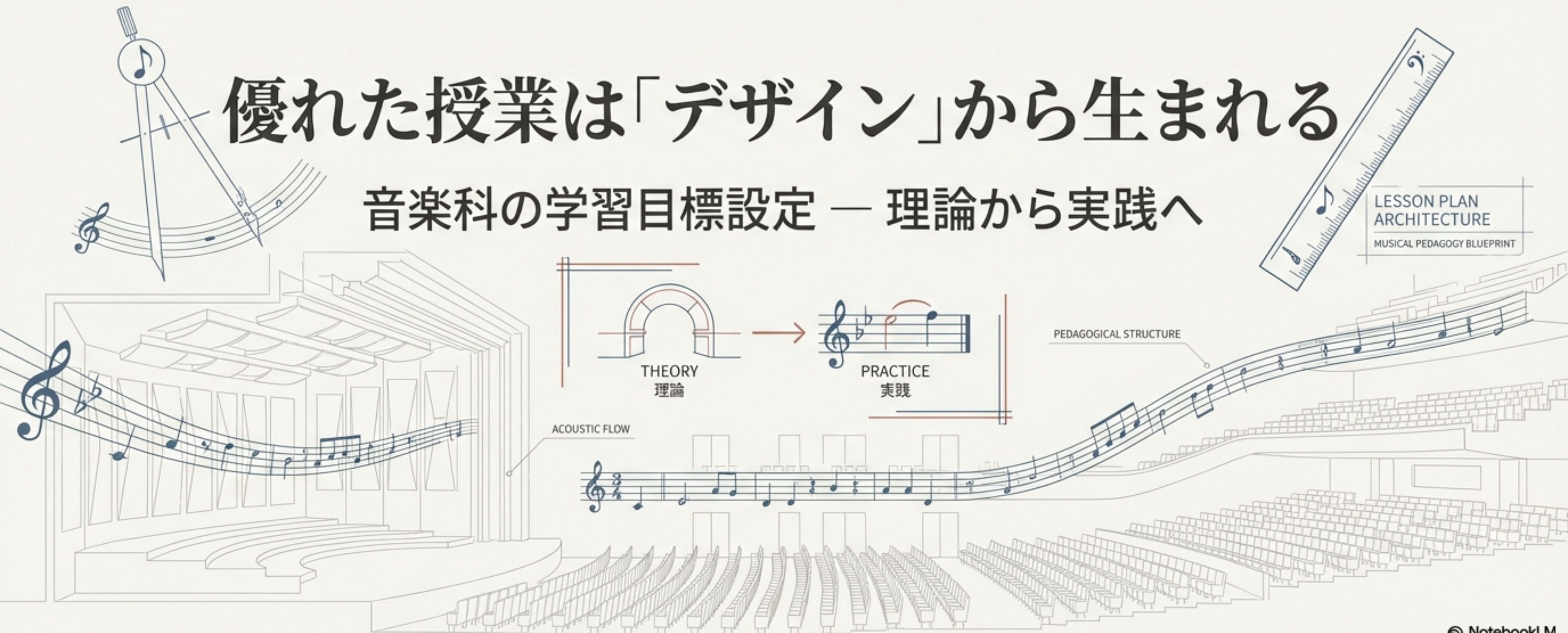


優れた授業は「デザイン」から生まれる

音楽科の学習目標設定 — 理論から実践へ



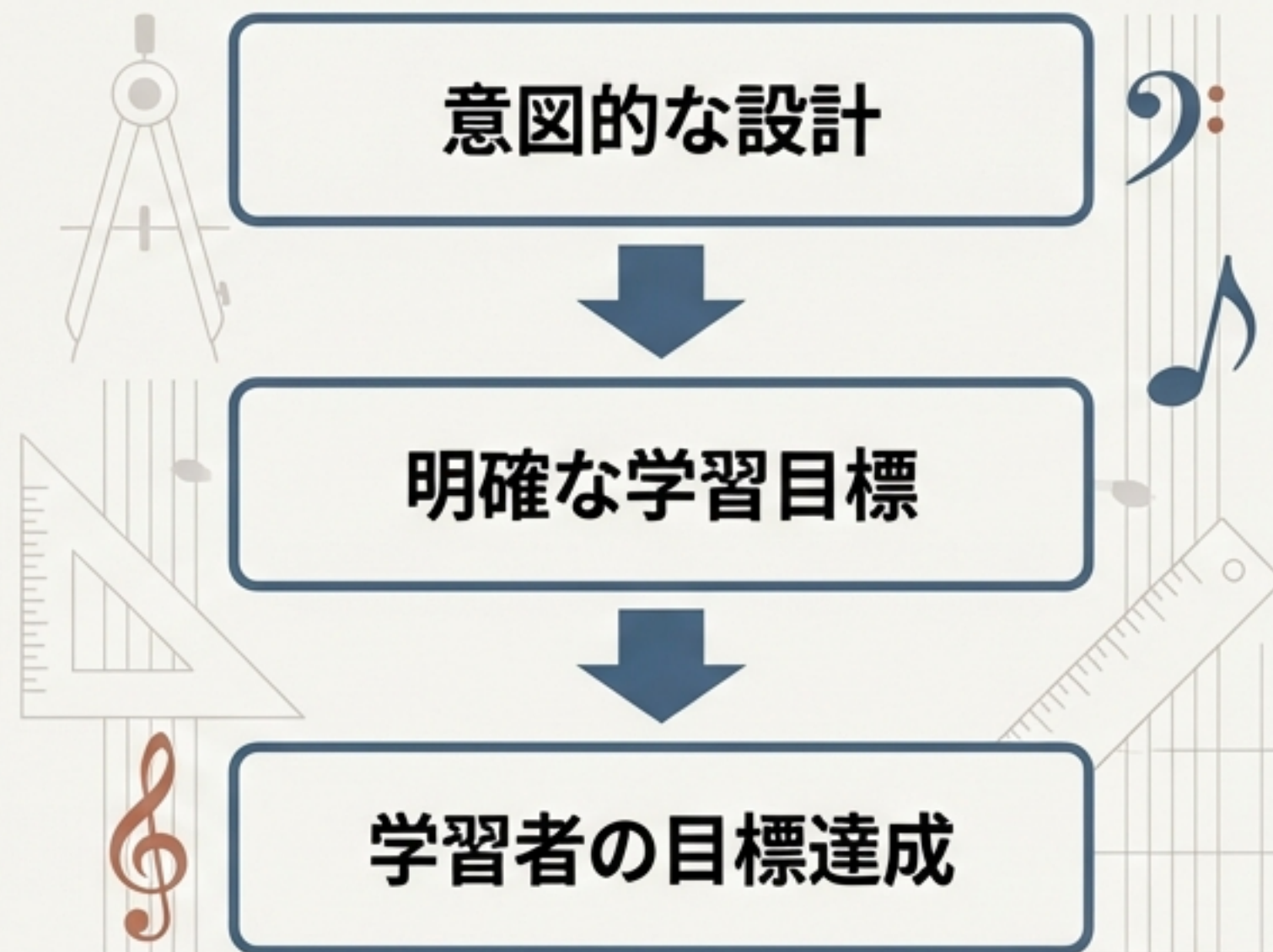
すべての児童が目標を達成できる授業とは？

よい授業の第一条件は、学習者が設定された目標を十分に達成できることです。

そのような授業づくりは、偶然ではなく、意図的な「設計」によって実現します。

そのための専門的な枠組みが「インストラクショナルデザイン（ID）」です。

IDにおける設計とは、明確な学習目標を設定し、すべての学習者が目標を実現できるように計画を立てるプロセスを指します。



授業デザインの出発点：学習目標の明確化

学習目標とは、学習者が「わかるようになること」「できるようになること」を、評価可能な具体的な形で記述したものです。



目標の妥当性検討：
目標が適切か、達成可能かを検討できる。



指導と評価の一体化：
学習目標と評価を一致させ、一貫した授業をデザインできる。



教師間の共通実践：
複数の教師が担当しても、共通の基準で実践・評価できる。

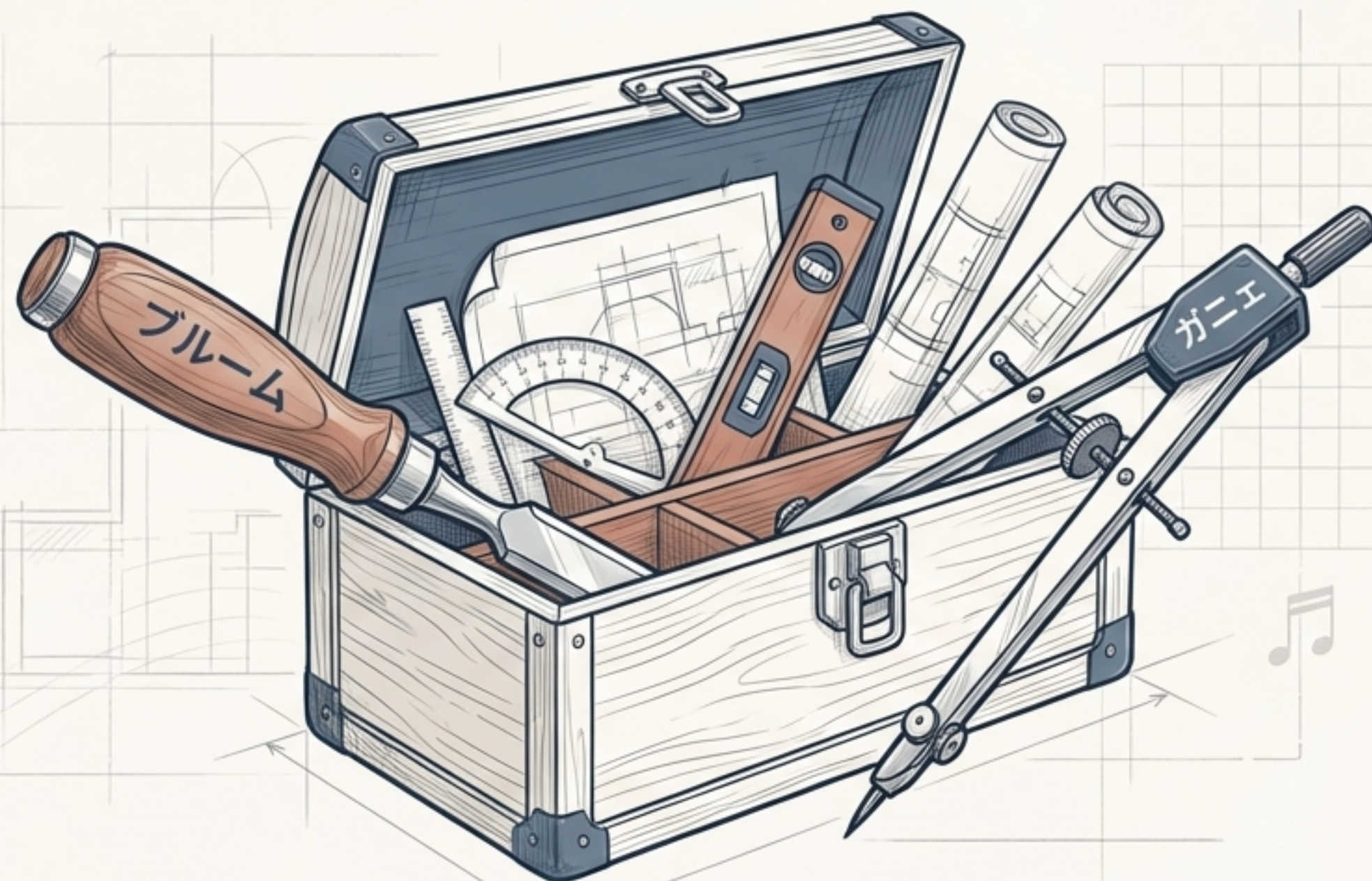


授業展開の明確化：
目指す方向が明確になり、教材選定や指導法がぶれない。

学習目標

2. 学びの解像度を上げる 「思考の道具」

なぜ学習目標が重要なのかを理解した上で、次はその目標をより精密に、多角的に捉えるための専門的なツールキットを見ていきましょう。



ブルームの分類体系：「学び」の段階を可視化する

教育目標を「認知的領域」「情意的領域」「精神運動的領域」に分類。特に認知的領域は、思考の複雑さに応じて階層的に整理されています。



ガニエの5分類：「学び」の種類を特定する

ブルームの理論を拡張し、授業設計にさらに有用な枠組み。目標達成の評価だけでなく、目標に到達するための効果的な「授業の条件」を知るヒントを与えてくれます。



言語情報
(Verbal
Information)

「～とは何か」を述
べることができる知識



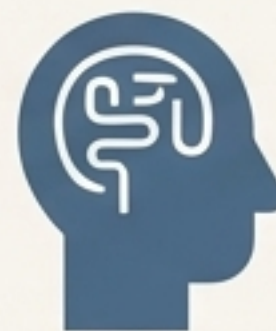
知的技能
(Intellectual
Skills)

「～の仕方」をやっ
てみせられる知識



運動技能
(Motor Skills)

体を動かして身に
付ける技能



認知的方略
(Cognitive
Strategies)

自分自身の学び方を
を工夫する技能

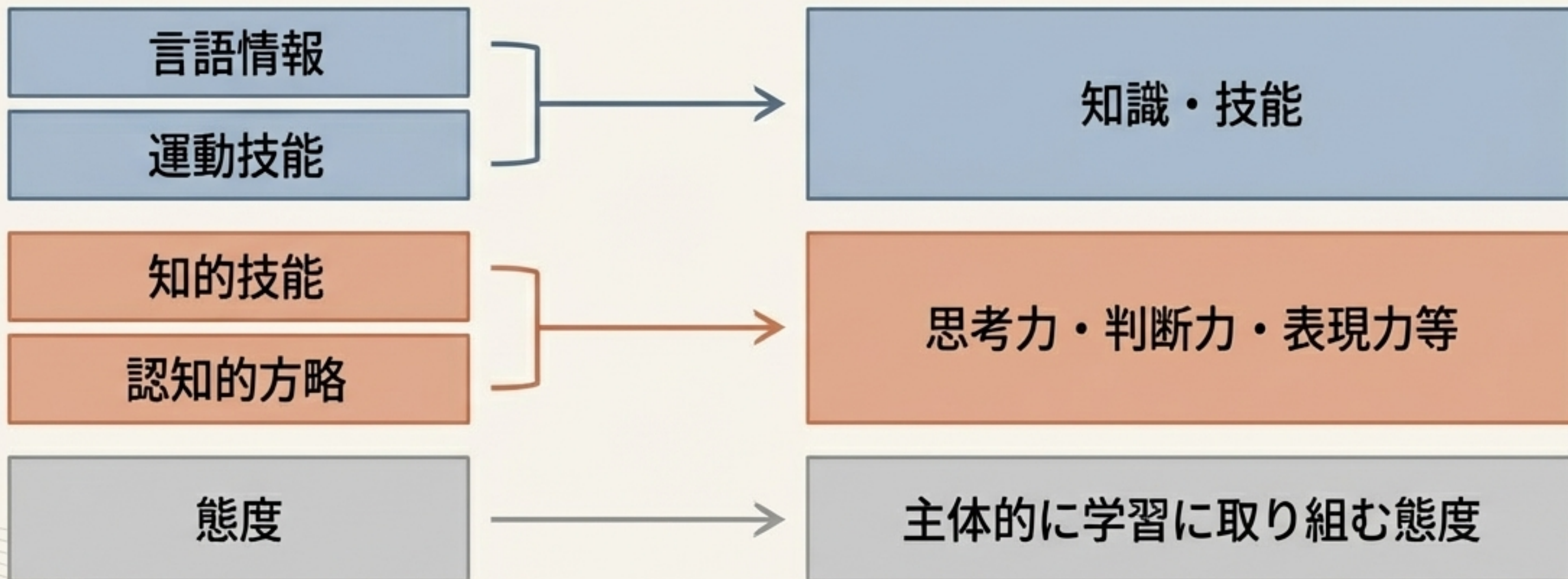


態度
(Attitude)

ある対象への個人の
内的な選択・気持ち

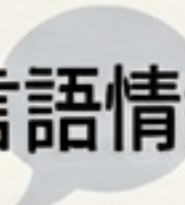
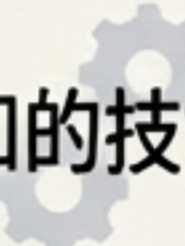
理論と現場をつなぐ：ガニエの5分類と学習指導要領「学力の3要素」

ガニエの分類は、学習指導要領が示す「学力の3要素」と明確に対応しており、授業設計において資質・能力を区別して捉える強力な補助線となります。



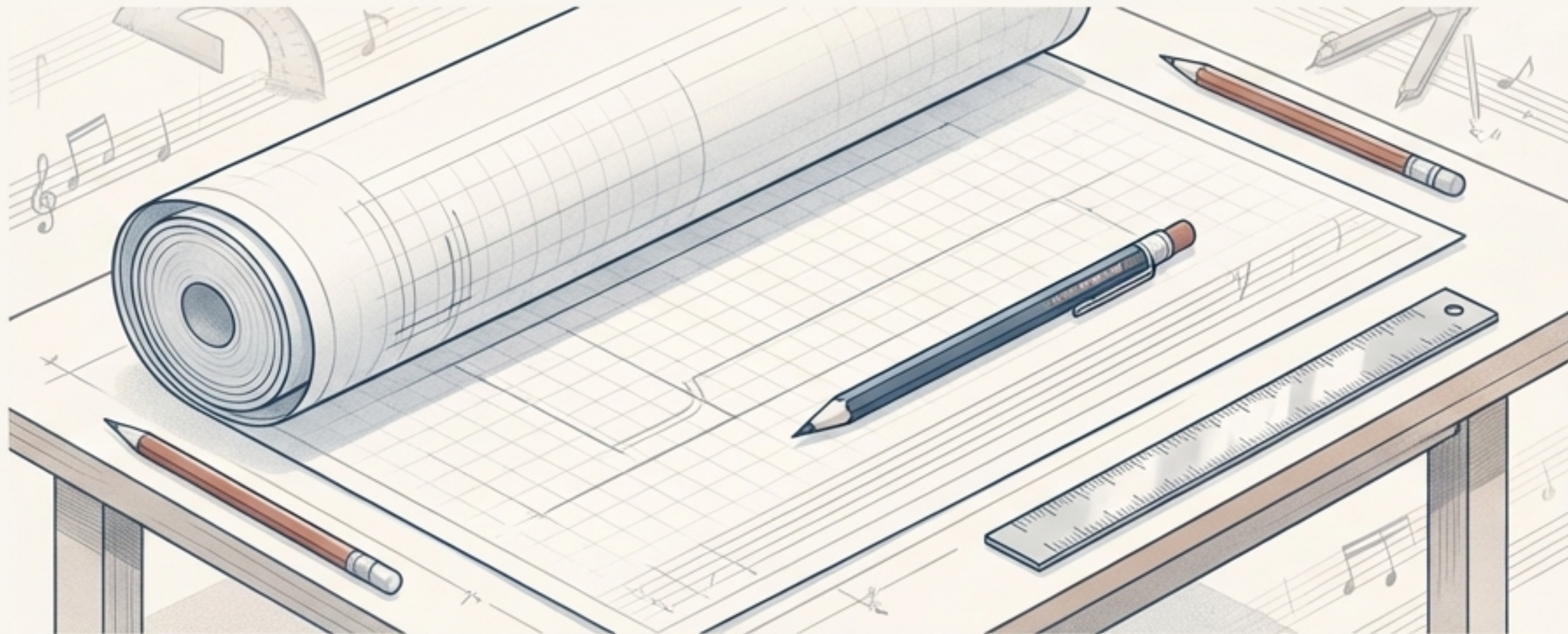
音楽科における学習目標の具体化

5つの分類を音楽科の学習活動に当てはめると、目標とすべき児童の「行動」がより明確になります。

分類	音楽科の学習活動例	行動目標例
 言語情報	楽器の音色や響きの変化を楽しむ	気付く、理解する
 知的技能	即興的な表現を、友達と関わりながら音を組み合わせせて表現する	試したり考えたりする
 態度	我が国や諸外国の音楽に関心をもつ	関わっていかうとする

3. 実践ステップ：音楽科の授業をデザインする

理論という「思考の道具」を手に入れた今、これらを活用して、実際の音楽科の題材における学習目標を設計する具体的なプロセスを見ていきます。



題材の学習目標設定：体系的な4ステップ・アプローチ

1

分析 (Analyze)

学習指導要領に定められた目標を分析する。

2

設定 (Set)

学年の目標及び内容を吟味し、題材の学習目標を設定する。

3

記述 (Describe)

目標分類表を基に、観点ごとに分析して、行動目標として記述する。

4

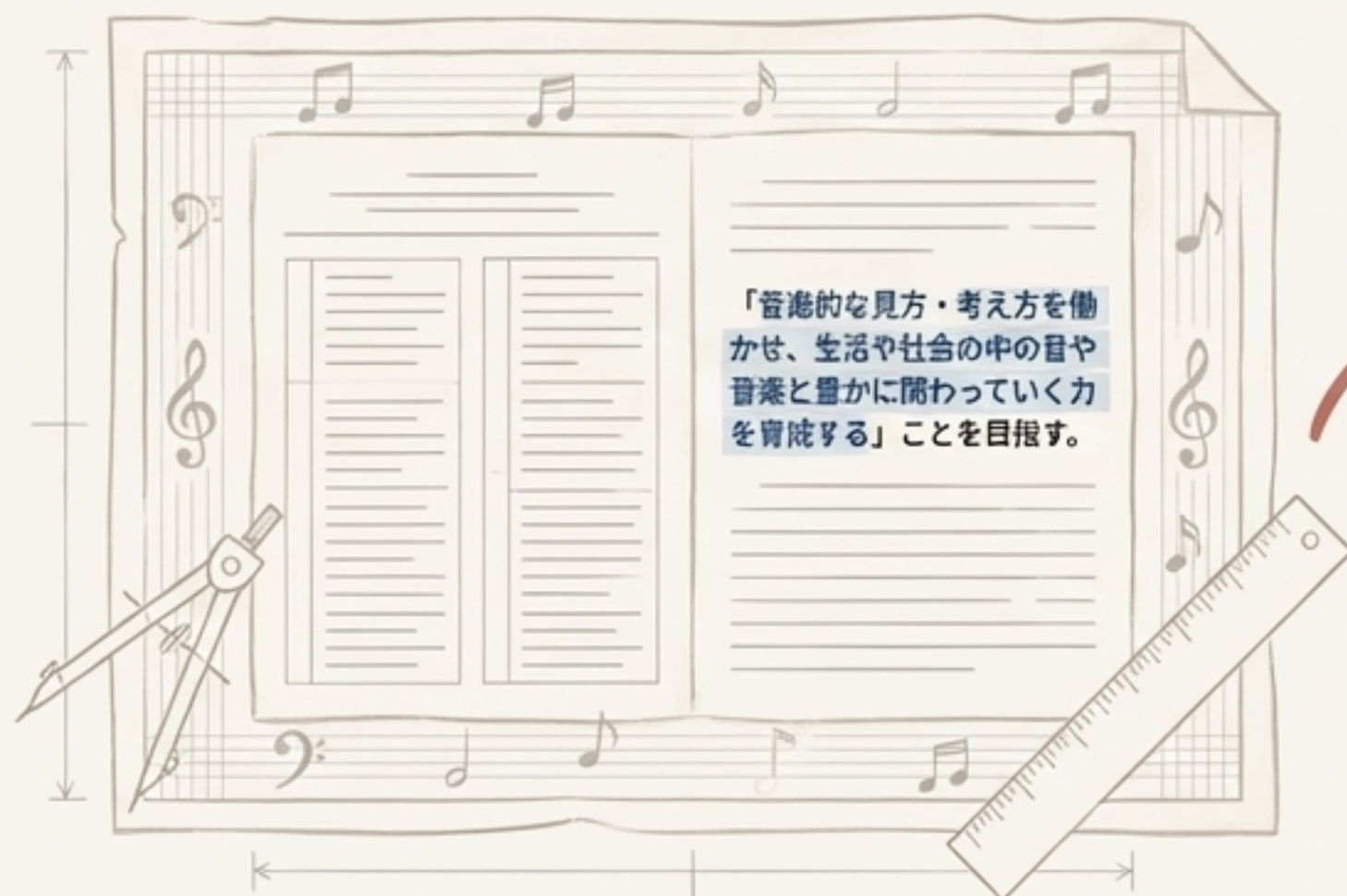
決定 (Determine)

授業設計に観点毎の行動目標を定め、本時の学習目標を決定する。

ケーススタディ：小4鑑賞「地域に伝わる音楽に親しもう」

Step 1：学習指導要領の分析

まず、小学校音楽科学習指導要領における第4学年の目標を確認します。



Step 2: 題材の目標設定

その上で、この題材を通して特に育成したい資質・能力を明確にします。

目標例

「音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わっていく力を育成する」ことを目指す。

ステップ3：目標分類表で目標を構造化・具体化する

題材の目標を「学力の3要素」の観点から分解し、児童の具体的な行動（行動目標）として記述します。これにより、指導と評価の計画が立てやすくなります。

内容	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力	主体的に学習に 取り組む態度
郡上節の楽しみ	曲想と音楽の構造 （音色、旋律など） との関わりについて 気付く。	聴き取ったことと感 じ取ったことを関連 づけて考え、曲のよ さを見いだしながら 味わって聴く。	地域に伝わる音楽に 興味をもち、主体的 に鑑賞の学習に取り 組もうとする。

ステップ4：題材の目標から「本時」の目標へ

作成した目標分類表は、年間の指導計画や毎回の授業設計の羅針盤となります。この中から、その日の授業で特に焦点を当てる行動目標を抽出し、「本時の学習目標」として設定します。

このプロセスこそが「指導と評価の一体化」を具体化する鍵です。

目標分類表			
	目標分類	思考力・判断力・表現力	思考力・判断・表現力
目標	聴き取ったことと感じ取ったことを関連づけて考え、曲のよさを見いだしながら聴く。	聴き取ったことと感じ取ったことを関連づけて考え、曲のよさを見いだしながら聴く。	聴き取ったことと感じ取ったことを関連づけて考え、曲のよさを見いだしながら聴く。
		聴き取ったことと感じ取ったことがもつづけえ、曲のよさを見て聴く。	

本時の学習目標

郡上節を聴き、その旋律や楽器の音色がもつ面白さを、自分の言葉で説明することができる。

デザインされた授業が「深い学び」を実現する

- ✂ • 明確な目標設定から始まる意図的な授業デザインは、教師の専門性を高めます。
- ✂ • ブルームやガニエといった「思考の道具」は、目標の解像度を上げ、多角的な視点を与えてくれます。
- 🎵 • 体系的なプロセスを通じて設定された目標は、日々の授業と評価を結びつけ、児童一人ひとりの「深い学び」と「資質・能力」の育成につながります。

